

## 医学古書データベース公開に 寄せて

滋賀大学附属図書館

情報管理サービス第二係長 中川 則孝

滋賀医科大学所蔵医学古書は、彦根藩医であった河村家ご寄贈資料から成る河村文庫、近江八幡の医家であった安倍家ご寄贈資料から成る守一堂文庫の二つの文庫により構成されています(資料内容詳細は、『滋賀医科大学古書目録』を参照)。この資料を電子化公開し、全国の医学史研究者、彦根藩史研究者及び近江郷土史、近江医学史研究者へ提供することにより社会貢献、地域貢献の一端を担いたいと考えました。そこで、上原正隆図書課長(当時)の号令の下、地道に日常業務の合い間を縫って、自館で電子化公開しました。

公開するに当たって、電子化する資料は、①これまでに撮影掲載依頼のあった資料、②閲覧希望のあった資料、③館内に展示している資料(この資料は、既に資料最初の見開きページのみ電子化されていた)の順に電子化する、1年に1000枚の画像を作成する、という計画を立て、平成16年度から実行しました。その結果、平成17年度末までに、2100枚余の画像を公開することができました。

この計画を実行しつつ、自館作成では作成できる画像数(平成16年から平成17年度の間本文画像を公開できた資料は対象資料1800巻のうち60巻)、画像の質に限界があるため、予算化を諮り外注することを

計画しました。

松田昌之附属図書館長を委員長とする河村文庫画像データベース作成委員会から、「平成18年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)研究成果データベース」に申請しました。この申請が採択され、この度の公開に至ったのであります。

では少し、自館で電子化していた頃のこぼれ話を書きます。最初に電子化した資料は、紙縫りで和紙を綴じてある資料で、紙縫りを解き一枚一枚にして電子化し、終われば紙縫りで和紙を綴じました。資料を傷めないよう非常に気を使いました。別の資料では、和装本の資料で解くと元に戻せないため、解くことを諦め、和装綴じされたまま電子化しました。この電子化の時には、画像を作成する時にどうしても裏写りするため、合い紙を差し込んで画像を作成しました。この合い紙を差し込む作業が結構手間です。虫食いの資料は和紙が引っ付いているので、破らないよう剥がさないといけないうし、和紙自体が薄いので、合い紙を差し込む時に破れないようにしないといけないうし、神経を使いました。このような苦勞をしながらも公開できた時には満足感がありました。少し残念なのは、次に電子化を計画していた資料が絵入り資料で楽しく電子化できそうだったので、人事異動で担当を離れたため、私の手で電子化できなかったことです。

最後に、医学古書データベース公開に向けて、滋賀医科大学附属図書館職員の方々、その他関係者の方々のご苦勞は大変なものだったと思います。ご苦勞様でした。

(なかがわ のりたか・前滋賀医科大学附属図書館情報サービス係長)